

学習指導案 2 / 9

(1) 指導目標

「星の世界」の副次的な旋律について、和声の響きを感じ取りながら歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつことができるようにする。

(2) 展開

過程	学習活動	教師の指導 (○)・支援 (●)・発問 (★)	評価規準と評価方法
導 入 ／	0 音楽遊びをする。  1 めあてをつかむ。 (1) 「星の世界」の主な旋律を歌う。 (2) 本時のめあてをつかむ。	○リコーダーで和音づくりをして、楽しく学習が始められるようにする。  ○前時を想起させ、和声の響きを聴きながら歌うことができるようにする。	
	2 和声の響きを感じ取りながら、歌い方を工夫する。 (1) 担当するパートを選ぶ。  (2) どこを、どのように歌いたいか考える。	○各小節ごとに音を伸ばし、2つの副次的な旋律が和声の響きになっていることを理解させる。 ○2つの旋律を1回ずつ歌わせて、自分の声の音域に合った旋律を選ぶことができるようにする。  ○前時の見通しを基に考えさせることで、和声の響きや音楽の縦と横の関係に着目して、歌い方の工夫を考えることができるようにする。	
展 開		★「声が響き合う」「声が溶け込む」ように、どこを、どのように気を付けて歌いたいですか。	
		○ワークシートの楽譜を3つの旋律が重なる部分と、旋律が1つになる部分に分けさせて、歌い方の工夫について考えやすくする。 ○ワークシートの楽譜に3つの旋律が重なる部分と1つの旋律になる部分についての工夫を書かせ、話し合いに使用させるようにする。 ○話し合ったことは拡大楽譜に書かせて、どこを、どのように歌いたいかが明確になるようにさせ、グループで共有化させる。	

展	<p>(3) グループで歌い方を工夫する。</p>	<p>○グループを2つに分けて、歌う側と聴く側になり、互いにアドバイスをを行うことができるようにする。</p> <p>○歌い方を工夫しながら、更に気付いたことをグループで出し合わせ、工夫を重ねていくように助言する。</p>	<p>「星の世界」の和声の響きや音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取って歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p>【創① ワークシート・行動観察】</p>
	<p>(4) 成果発表をし、感想を伝え合う。</p>	<p>★「声が響き合う」「声が溶け込む」ように、どこを、どのように気を付けて歌いたいですか。</p> <p>●どこを、どのように歌うかについて考えをもつことができない児童に対しては、友達のワークシートや発言内容を参考にさせる。</p> <p>○グループに1台ずつキーボードを準備し、音程を確認しながら練習できるようにする。</p> <p>○成果発表を行う時刻を伝え、計画的に練習ができるようにする。</p> <p>○適宜、児童の様子を観察して助言したり、成果を称賛したりして表現の工夫を高めさせる。</p>	
開	<p>(5) 副次的な旋律を合唱する。</p>	<p>○互いのグループの工夫点や良かったところを認め合い、自分たちのパートでも参考にできるものは、次時の学習で生かすように伝える。</p> <p>○3つの旋律が重なる部分と、旋律が1つになる部分について、歌い方の工夫を見付けさせるようにする。</p>	
／ ま と め	<p>4 次時の学習を知る。</p>	<p>○CDに合わせて歌わせることで、主な旋律や伴奏を聴き、和声の響を感じながら歌うことができるようにする。</p> <p>○拡大楽譜は、次時の学習で使用できるように掲示する。</p> <p>○良かったところを評価して自信を付けさせるようにする。</p> <p>○次時は、三部に分かれて合唱することを伝える。</p> <p>○本時のめあてを振り返らせ、称賛するとともに次時への意欲を高めさせる。</p>	

## 〈評価規準と評価方法〉

「星の世界」の和声の響きや音楽の縦と横の関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取って歌い方を工夫し，どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。

## 【創① ワークシート・行動観察】

十分満足 (A) と判定する目安	おおむね満足 (B) と判定する目安	
副次的な旋律について，響き合い，声が溶け込むような合唱にするために，どこをどのように歌うのか3つの旋律が重なる部分と旋律が1つになる部分について，和声の響きや音楽の縦と横の関係と関連付けた工夫をワークシートの楽譜にそれぞれ2つ以上書いている。	副次的な旋律について，響き合い，声が溶け込むような合唱にするために，どこをどのように工夫して歌うのか3つの旋律が重なる部分と旋律が1つになる部分のそれぞれについての工夫をワークシートの楽譜に書いている。	●どこをどのように歌うかについて考えをもつことができない児童には，友達のワークシートや発言内容を参考にさせる。